

新任職員研修 実施レポート

視聴期間：令和2年5月13日（水）～5月14日（木）
視聴方法：YouTubeによる視聴 参加者：74名

新たに生涯学習・社会教育行政の現場に着任した職員を主な対象に「新任職員研修」を実施しました。社会教育の役割と可能性のほか、関係職員に求められる心構えなどを学びました。

【研修の形式について】

当初は生涯学習センターで実施する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、事前に研修内容を撮影・編集しました。そして受講者に視聴用URLを示して、YouTube上で限定公開し、受講者の勤務状況に応じて視聴・研修する形式としました。研修動画はおよそ2時間となりました。

【前半】

前半は、生涯学習センターの皆川 雅仁主幹が、「開かれ、つながる社会教育の実現に向けて～社会教育関係職員の社会的責任～」のテーマで講話しました。その中で、まず平成29年度の社会教育法改訂に伴い「地域学校協働活動」（＝幅広い地域住民の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支え、「学校を核とした地域づくり」を目指し、地域と学校がパートナーとして行う活動）の円滑かつ効果的な実施に向けた取組が教育委員会の重要な仕事の一つになったことを確認した上で、「社会教育」も「学校教育」も「開くこと」「つながること」が必要とされている現状を指摘しました。

その上で、「社会教育」や「学校教育」が抱える課題の解決を目指す時に有効な話し合いの手法である「熟議」について学びました。「熟議」とは、①多くの当事者が集まって、②課題について学習・熟慮し、討議をすることにより、③互いの立場や果たすべき役割への理解が高まるとともに、④解決策が洗練され、⑤個人が納得して自分の役割を果たすようになる、というプロセスのことです。この「熟議」は、目標の共有／課題の発見／課題解決に向けた協働／地域への波及／成果の共有など、様々な状況に応じて利用可能であることも学びました。

そして自らの経験に基づき、業務を進める手法としての「LR-DC」マネジメントサイクル（Look-Reform-Do-Connect）と、社会教育主事の心構えとしての三原則「社会教育主事に“No”はない」「友達の友達は…皆友達だ！」「“こだわりをもたない”こだわり」を提唱しました。



＜収録風景＞

【後半】

後半は、生涯学習センターの柏木 睦主任社会教育主事が、「現代的な課題への切り込み方～生涯学習センターの取組事例から～」のテーマで講義しました。



＜収録風景＞

講義では、昨年度から生涯学習センターが取り組んだ「障害者の生涯学習」に関する説明がありました。現代的な課題の一つである「障害者の生涯学習」について、昨年度はニーズ調査・社会教育職員専門研修・「障害者スポーツ」に関するスマートカレッジ講座の実施を並行して進めることで、相互に補い合いながら課題に対する研究を深めることが可能となりました。それを受けて、今年度は「障害者の生涯学習」と「防災」とを組み合わせた視点で、調査・研修・講座を進めていく旨の説明がありました。

そして「障害者の生涯学習」をめぐる調査・研修・講座の取組が、障害者スポーツコーナーの設営や「障害者の生涯学習」実践団体との交流、秋田大学附属特別支援学校と連携した研究・交流や企業との連携など、様々な分野に拡大している現状を知ることができました。

最後に、「バリアフルレストラン」の体験を通じ、社会には多様な人々がいること、そして生涯学習は「いつでも・どこでも・だれでも・なんでも」を実現するものであることを学びました。

【参加者の声】（抜粋）

- ・今まで自分の仕事の役割とは何か、社会教育とは何か、どの立ち位置にあるのかもわからぬまま不安な気持ちで仕事をしてきたが、今回の研修で理解する事ができた。
- ・既存の人材や素材を改良したり、ゆるやかなネットワークを生み出して繋げること、「できない」とはじめてから断るのではなくなんとかやってみるという考え方で業務を行うことが大切だと感じた。